

昭和50年(1975年)8月26日 火曜日

2版 (6)

18年 歩み

バグウォッシュ会議

戦後日本の知識人の思想のひと

つこの核心は「平和の原理」の追求にある。これにバグウォッシュ会議が与えた影響も大きい。一九六二年結成され、国内版バグウォッシュ会議と改称された科学者京都会議は、その中心のあらわれだった。「バグウォッシュ」が次第に政府のシムルを傾斜していったのにならぬ。日本では、ラッセル・アインシュタイン宣言の初めに掲げられた平和の原則を追求する

国内版

「バグウォッシュ」を継承するという目標を掲げ、その中心にバグウォッシュ会議の原則、それを合意として、平和の原理を創造するため、湯川秀樹、朝水敏一郎、坂田昌一氏の三物理学者がよびかけ人となっ

平和の原理追求へ 1975.8.26 朝日夕刊 人文系学者も参加

「このときの目玉商品は、軍縮の経済学だ。当時の俗説は、軍縮をやっているとき、軍縮したら社会的混乱が起きるといふものでしたが、都府先生が資本主義社会でも経済学で軍縮は可能であると述べたのが記憶に残っています」と湯川教授。

この科学者京都会議は「本浄」の力をはたかせる。この科学者京都会議は「本浄」の力をはたかせる。この科学者京都会議は「本浄」の力をはたかせる。



バグウォッシュ会議の「国内版」ともいえるべき第三回科学者京都会議で声明を発表する科学者たち。前列左から坂田昌一(故人)、湯川秀樹、朝水敏一郎氏。一九六六年、東京・二ツ橋の学士会館で

「平和の公理」の追求がある。公理とは、証明は不能であつても、だれもが否定できない真理をいう。戦争廃絶と核全面軍縮をうたい人類の平和を望むラッセル・アインシュタイン宣言を公理とみなし、深く理論づけようとした。勉強家で哲学者久野取氏や政治学者丸山真男氏が、この問題を追求した。当然これと関連する日本国憲法第九条の思想がこの会の思想形成の大きな武器となる。

「国家の安全を『力の均衡』によって保障しようとする考えは、必然的に無制限の軍備競争をひきおこし、従つて、平和をうち立てることを不可能にします。永続する平和をうたい出し、新しい世界秩序をうち立てるためには、諸国家の利益や価値体系の共通点を見だし、その増大を目指すという相互信頼の立場にたつことが不可欠であります」と。

c092-17-042